

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号	15
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>【目標】校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。</p> <p>【方針】キャリア教育を積極的に推進し、逞しく生きる力を身に付けるとともに、本県の産業に貢献できる人材の育成を図る。</p>	
2 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>・学習指導、教職員の取組に対して、生徒、保護者の両者から良好な評価を得ることができた。「テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている」生徒の83%回答。「授業を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている」生徒の81%、保護者の76%回答。これらのことは、教務部の重点目標である、「創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開し、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばす」取り組みの成果とも考えられる。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育む。</p> <p>◇学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養う。</p> <p>◇課題の発見・解決に向けて主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を取り入れた授業を積極的に推進するとともに、その指導法並びにルーブリック評価についての研究を進める。</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務部と他分掌及び教科、学科との連携を密に取り、研修会、教科研究会等を推進する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 授業研究月間における授業研究の推進 (2) 教科、学科での授業改善に向けた研究会	(1) 研究会、研究授業を生かした授業改善 (2) アクティブ・ラーニングの指導法の研究	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価規準を設定した授業の実施 ・課題の発見、解決に向けて主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の実施 ・専門教育の充実をさらに図り、科学的素養を養うことを主眼においた授業の展開 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業のねらいに迫る指導と評価の一貫性を大切にした授業が展開できたか。 ②生徒の発言や発表等の場を充実した授業が展開できたか。 ③主体的に学習に取り組む態度が養成できたか。 	<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p>
11 成果 課題	<p>○課題の発見・解決に向けて主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を取り入れた授業を積極的に推進したことにより、学習意欲の向上と主体的に学習に取り組む態度の養成をすることができた。</p> <p>○専門教育の充実並びに、SPH推進事業・F SH推進事業による各種取り組みを通して、知識・技能の習得とともに思考力、判断力、表現力の育成にも大きな成果が上がっている。</p> <p>▲次期、学習指導要領改訂(2022年度)に向けて、教育課程の検討を推進する。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<p>・アクティブ・ラーニングの視点から不断の授業改善を継続的に推進していく必要がある。</p> <p>・学習指導要領改訂に向けて、生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指し、求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携することで「社会に開かれた、社会に適応した」教育課程の検討を推進していく必要がある。</p>	
	<p style="text-align: right;">総合評価</p> <p>(A) B C D</p>	

2	評価する領域・分野	◇進路指導	
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の9割以上が進路情報の提供、将来の希望に沿った具体的な進路指導について概ね満足している。 ・保護者の9割以上が進路説明会の内容、進路情報の提供、生徒への進路希望に沿った適切なアドバイスについて概ね満足している。 	
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇キャリア教育の観点に立ち、自己の在り方生き方を考えさせながら主体的に進路を選択できる能力や態度を育成するとともに、SPH、FSHを活用した専門教育を通して、将来のスペシャリストの育成、岐阜県の産業を担う人材の育成、人間性豊かな職業人の育成を図る。	
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・系統的、体系的に進路意識を高めることができるよう、各分掌・学年・学科・教科と連携を密にした校内体制をとる。	
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	(1) キャリア形成を意識した系統的、体系的なガイダンス及びLHRの実施 (2) 学年、学科と連携した進路相談・指導の充実 適切な情報提供	(1) 学年進行とともに進路希望の具体化の程度、および希望する進路先への決定割合 (2) 生徒・保護者等を対象とするアンケートによる評価の状況	
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
	○各学年の進路目標に応じたガイダンス等の実施 ・1年生：関連分野のみならず幅広く職業を理解させる ・2年生：職種別、進学分野別の説明会を実施し進路選択に必要な情報を収集させる ・3年生：校種別進学説明会、就職・公務員説明会を実施、進路決定に向けた具体的な対策を立てさせる。 ・進路希望に応じた進学補習、公務員補習、小論文指導、面接指導の実施 ・3学年において生徒の進路希望に応じた指導やサポート体制の充実 ・保護者には育友会総会、学年進路ガイダンス、三者懇談会等の機会に具体的な進路情報を提供するとともに、相談に随時応じる。	①学年進行とともに進路目標を明確化し、進路未定者が減少しているか。 ②3年進級時には全員が進路希望を具体化しているか。 ③進学、就職ともに概ね希望の進路先に合格できたか。 (アンケートの満足度は高いか)	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11	成果 課題	総合評価 A (B) C D	
	○生徒は、進路情報の提供、具体的な進路指導について概ね満足をし、ほとんどが第1希望の進路先に合格をしている。民間企業希望者の第1希望内定率98%、公務員合格者数現状維持(13名内定・1名結果待ち)、7割の生徒が進学を希望し概ね希望の学校に合格(国立大10名、私立大65名、短大23名、大学校等23名、専門学校63名)。 ▲志高く、より高い目標に取り組もうとする姿勢を育てることが重要である。そのために、各分掌と連携した指導体制を充実させ、1年次から継続して努力する姿勢、主体的に進路選択をしていく能力と態度を育む必要がある。 ▲農学系私大の難化傾向が見られ、より一層の基礎学力の充実が必要である。		
12	来年度に向けての改善方策案 ①学年会との連携をより密にし、LHRや学年集会での進路指導、進路情報の提供をより充実させ、より高い進路目標実現への意識向上を図る。 ②新しい入試制度への具体的対応を進め、進路指導体系の改善・改革を具体的に進める。		

2 評価する領域・分野	◇生徒指導・教育相談	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・人間としての基本的なモラル・マナーを身に付けさせようと努めている。(生徒) ・社会に相応しい服装、頭髪等の指導がなされている。(生徒) ・学校としていじめや差別を許さず厳しく指導している。(生徒) ・学校の指導に対し理解が得られている。(保護者) 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育目標の観点に立ち、岐農三訓「時を守り 場を清め 礼を正す」の徹底を図る。 (1) 基本的な生活習慣(身だしなみ・遅刻・挨拶)向上の指導徹底。 (2) 生徒の安全と命を守る教育の推進を図る。 (3) 教育相談機能の充実を図る。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部及び職員間の共通認識を図る。 ・生徒情報の共有化を図る。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) エロカード、マナーカード、遅刻指導の継続 (2) 登校指導や交通安全の啓発運動の実施 (3) 迷惑調査結果の迅速かつ真摯な対応、教育相談週間の実施(年3回、時間確保) 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 身だしなみの客観的評価、外部からの評価、遅刻者数の増減。 (2) 交通事故発生数の増減。地域からの評価。 (3) 不登校や問題を抱える生徒の適切な対応。 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な点検指導。教頭の遅刻指導継続中。 ・登校指導、自転車点検、ハザードマップ作成。 ・教員間の連携、情報共有。教育相談機能の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ①身だしなみは整っているか。遅刻者数はどうか。 ②交通マナーはどうか。交通事故発生件数はどうか。 ③不登校生徒の対応は十分か。 	<ul style="list-style-type: none"> A (B) C D A (B) C D (A) B C D
11 成果	<ul style="list-style-type: none"> ○身だしなみ点検を担当による実施に加え、生徒指導部による点検を新たに設置した。それでも生徒の規範意識はより高まったとは言えない。 △遅刻者は年間で昨年度より増加。通院後の登校やリハビリの生徒が目立った。 ○交通事故報告数14件(昨年同月比-2)。校内で大事故が発生したことから体育館改修工事にともない、送迎車や通学する生徒の動線を再確認し、事故の未然防止を図った。MSリーダーズの活動や掲示物等で注意喚起を常に行った。 △情報モラルの育成のため年2回統一LHRを実施した。巡回指導や様々なリーフレットを配付し啓発に努めたが、1年生の規範意識向上が課題となった。 ○教育相談は様々な生徒に対応することができた。 	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒指導ガイドライン」の改訂。転任者へのORも実施の方向で検討する。 ・年度当初に生徒指導部ORを1年生対象の他に、全校生徒対象にも実施する。 ・教育相談課と担任との関係をより密に活動していく。生徒からのいじめの訴えに担任がより適切な対応ができるように支援していく。「いじめ早期発見・事案対処マニュアル」の周知徹底を図る。 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> 総合評価 A (B) C D 	

2 評価する領域・分野	◇特別活動	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事（岐農祭、体育祭、球技大会など）が充実して行われていると答える生徒や保護者が多く、保護者は生徒がその取組みを通して成長できていると感じている。ただ部活動については、活発な活動をしていると答える割合が生徒も保護者も昨年より低くなっており、学校生活の主な柱である部活動を更に充実させることを望んでいる。 ・LHR活動や生徒会活動にやや物足りなさを感じている。中でもボランティア活動については、本校での取組み状況が認識されておらず、その内容や参加方法について知らせてほしいとの声がみられる。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇豊かな心をもつ自立した生徒を育てるため、生徒会活動などの特別活動の活性化と充実を図り、感動と達成感のある教育を推進して社会性と指導性を育てる。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・特活指導部と他分掌、学科、学年会、担任との連絡と連携を図る。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒会行事の円滑な運営と生徒会役員のリーダーシップの育成 (2) 他の教育活動との連携を図った生徒会活動の充実 (3) 部活動の充実とさらなる活性化 (4) 各種委員会活動の充実と自主的なホームルーム活動の展開 	<ul style="list-style-type: none"> (1) スムーズな行事運営と生徒会役員の自主的、積極的な行動 (2) 学校行事の計画および実施における関係者の連絡徹底と協力連携、及び実施後の点検 (3) 県大会以上の入賞数や全国大会出場などの大会結果と日常の活動状況の把握 (4) 委員会活動やホームルーム活動の把握 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部員による定例会を自主的に運営。生徒会行事の企画、実施運営のためのシナリオ作成。（放送による生徒への働きかけを含む） ・生徒会行事の早期計画と綿密な準備、円滑な運営。広報（生徒会新聞の発行）を通じての生徒会活動の周知。 ・部顧問とHR担任、および部活動係との相互連絡。必要備品の整備。 ・自主的なホームルーム活動の実施。各分掌との連携。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 定例会議を開き、早期に企画運営ができたか。 ② 早期に各分掌へ計画を示し、意見集約、検討ができたか。 ③ 生徒の活動状況をHR担任に伝えることができたか。必要備品の整備ができたか。 ④ LHRの充実を図ることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> (A) B C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会執行部が自主的、積極的に岐農祭、体育祭、球技大会などの運営に関わることができた。（各行事の準備期間及び当日、行事後のまとめ期間） ○部活動では運動系と文化系の多方面での生徒の表彰があり、また学校生活の学習の成果としても様々な表彰を受けた。 ▲本年度は猛暑による体育祭延期開催と岐農祭開催が重なり、準備については、多くの問題や混乱を招いた。どちらの行事についても開催の是非や時期、内容、組織について何度となく検討し、改善できるところは進める。 ○岐農祭の一般公開日については、地域への貢献という形で円滑に運営できた。 ○生徒の部活動カードを一括管理したことで、活動状況把握ができた。 	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の在り方については、生徒にとっての最善を考え再考する。また各分掌・学科・団体との共通理解を図りながら円滑な運営に努める。 ・生徒会活動や部活動をより充実させ、学校生活を有意義なものにしていくための方策を練る。 		

2 評価する領域・分野	◇健康管理・安全管理	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び保護者の9割以上が安全・衛生面での配慮がなされていると評価している。 ・2割弱の生徒が「掃除が行き届いており校内がきれいである」の項目にC評価をつけている。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒ひとりひとりが健康と安全に関する自己管理能力を培う。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室を中心とした健康と安全に関心を持たせる指導。 ・命を守るための訓練の実施と様々な災害を想定した防災意識の向上。 ・全職員による清掃活動の指導徹底 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 保健室を中心とした保健衛生活動と保健委員による点検活動 (2) 安全点検、命を守る訓練、防災情報整備 (3) 全職員による清掃指導と美化委員による点検 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 環境衛生日常点検結果と保健室来室記録・災害報告書による状況把握 (2) 点検結果と行動観察 (3) 係生徒による点検結果 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・活発な保健室活動、廊下掲示物の整備、保健委員によるLHR活動 ・安全点検による環境の整備、命を守る訓練の実施 ・毎日の生徒全員による清掃活動 	<ul style="list-style-type: none"> ① 各自の健康に関心を持つことができたか ② 各自が安全に気をつけたか ③ 身の回りの清掃に気を配ったか 	<ul style="list-style-type: none"> A B C D A B C D A B C D
11 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ○健康・保健・安全指導が徹底され、生徒自身が健康維持に努める行動（手洗いマスク着用など）が見られた。 ○保健委員による点検活動やLHR活動など、生徒が積極的に取り組めた。 ・○学校環境衛生活動で、準優良校の表彰を受けた。 ○「命を守る訓練」は、災害時の職員と生徒の初期行動が定着しつつある。 ▲毎日の全員掃除はしっかり取り組んでいるが、開始時間が遅れることがある。掃除道具は十分とは言えないが整備されている。 	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・自らの健康管理においてはなお一層の働きかけを行う。 ・防災意識をさらに高めるため、「命を守る訓練」をより実効性のある内容にしていく必要がある。 ・職員、生徒の美化意識の向上を目指すために、清掃指導の徹底を行う。 ・掃除道具の更なる充実を図る。 ・岐農三訓「時を守り、場を清め・・・」の徹底。 		

2	評価する領域・分野	◇農業全般		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	本校の専門教育に対する期待度は大きい。 地域人材を育成するSPH事業やFSH事業への注目が高い。 7学科がそれぞれの専門性を生かした教育を実施している。		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1)新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動・教育環境の充実を図る (2)備品管理と安全教育の徹底を図る。		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	(1)職員会議、農場会議、科長会、各学科会議 (2)地域連携や地域社会との協働		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1)課題発見・解決能力や自発的・創造的な学習態度の育成。 (2)大学や研究機関等との連携。 (3)プロジェクト活動の質的向上。 (4)備品管理と安全指導の徹底。	(1)事後アンケート (2)地域の声や生徒・保護者・職員の意見 (3)各種メディアへの報道状況等		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
	(1)「課題研究」を通しての課題発見・課題解決学習。 (2)職員一人ひとりの研究とプロジェクト学習のレベルアップ。 (3)安全運転に努めることや作業点検カードや運転台帳への記録を適切に行う。	・課題研究の活動状況及び発表会 ・研究の実施状況 ・事故や怪我などの発生件数	A (B) C D A (B) C D (A) B C D	
11	成果 課題 ○地域と連携したプロジェクト活動に積極的に取り組むことができ、農業及び環境に関する学習について興味・関心を高め、科学的思考力と課題解決能力を育成することができた。 ・○目指す資質や能力を明確にして系統的・体系的に連携事業が実施でき、充実した教育活動に繋がった。 △連携事業を通じて、科学性の高い研究課題の発見や解決にいかに関係が課題である。 ○全国大会プロジェクト発表会視察報告では、最優秀賞（文部科学大臣賞）を受賞した映像を視聴し、今後のプロジェクト学習の指導に生かせる貴重な報告を聞くことができた。 ○安全指導の周知徹底により、職員、生徒とも大きな怪我もなく取り組むことができた。	総合評価 A (B) C D		
12	来年度に向けての改善方策案 (1)引き続き科学性の高い「課題研究」に取り組めるよう自己研鑽に努める。 (2)職員間の情報共有と協力体制を整える。 (3)実験・実習の見直しによる施設・設備の整備を農場総務費を活用して計画的に進めるとともに、常に意識して、備品管理と安全指導に取り組む。 (4)GAP、HACCPへの取り組みをより具現化する。			

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年 1月18日

【意見・要望・評価等】

- ・毎回感じるのは、生徒さんの明るい表情とのびのびとした様子です。先生方のご苦勞も大変かと思いますが、優秀な人材育成のためにも課題に向かって実現を図られることを期待します。
- ・生徒一人一人が学校に対する愛着や誇りを持っているように感じます。今後も生徒の気持ちを尊重した学校運営を期待します。
- ・この学校に入学して良かったと思える生徒がたくさんいることがとても素晴らしいと思います。
- ・教職員の専門的知識の元で、生徒の能力がいつそう高まり、効果的な学習ができています。
- ・進路に関しては、生徒の今後の将来性が関与してきますので、今後も先生方の細やかな対応を要望します。
- ・生徒の身だしなみ、モラルは遵守すべきであり、適切な指導の下で、健全な学校生活がなされています。なお、交通事故の減少を図ってください。
- ・学校行事は、生徒の成果、取組が行かされる場所であり、円滑な運営により、実践されています。また、満足感がよくわかります。
- ・安全対策マニュアルも整備され、しっかりとした運用がなされています。
- ・まだ未成年である生徒達なので、今後も家庭と学校の連携をとって安全強化に努めていただくことを望みます。